

## 総合人間学部

I	教育の水準	.....	教育 19-2
II	質の向上度	.....	教育 19-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準にある

#### 〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 複数領域にまたがる教育の実践のため、主専攻のほかに副専攻の制度を設けており、卒業時には学位記とは別に副専攻名を記した認定書を発行している。
- 教員の研究活動の活性化、学生の教育研究指導や国際交流を図るために、外国人研究員（客員）を毎年度5名から6名を受け入れている。
- 提出された現況調査表からは人間・環境学研究科の現況調査表と記載の重複が見られ、部局としての適切な分析が必ずしも十分行われているとはいえないものの、自己点検・評価委員会等において、教育研究活動の状況等に関する検証を行い、部局としての教育・研究活動に関する『人環レビュー資料編』を毎年度刊行しているほか、教員個人の教育・研究活動に関する『人環レビュー教育・研究活動の自己評価』を3年度ごとに刊行し、それぞれ公表している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の主体的な学習活動の促進・支援を図るため、学生から学際的な研究プロジェクトを募集する「総人・人環学生研究プロジェクト」を平成25年度から実施しており、平成27年度までに8件のプロジェクトを採択している。また、プロジェクト終了後には成果報告会を開催し、『総合人間学部広報』において活動内容を報告している。
- 学生の主体的な学習を促すため、吉田南総合図書館に自主学習スペース「環on」を設け、平成22年度に学部生卒業論文作業室を設置している。また、自主ゼミ・学習会に講義室等を貸し出しており、利用実績は教育課程外の活動に年間200時間以上、学生の自主学習に年間100時間以上となっている。
- 単位の実質化の取組として、平成25年度入学者からCAP制を導入し、全学共通科目の履修コマ数の上限を1開講期につき20コマまでとしている。また、平成25年度に授業成績の成績異議申立を制度化している。

以上の状況等及び総合人間学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 期待される水準にある**

**〔判断理由〕**

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における学生の受賞数は計8件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における卒業生の進路状況は、平均39.7%は進学し、就職率は平均82.0%となっており、主に情報通信業、銀行・証券の企業や公務員等に就職している。
- 平成22年度及び平成27年度に実施した卒業生の就職先へのアンケート結果では、「理解力や判断力」及び「協調性」の項目について、肯定的な回答はいずれも80%以上となっている。また、「総合的に判断して、優れている」の項目について、肯定的な回答は平成22年度の89%から平成27年度の100%となっている。

以上の状況等及び総合人間学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 25 年度から学生の主体的な学習活動の促進・支援を図るため、学生から学際的な研究プロジェクトを募集する「総人・人環学生研究プロジェクト」を実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度及び平成 27 年度に実施した卒業生の就職先へのアンケート結果では、「総合的に判断して、優れている」の項目について、肯定的な回答は平成 22 年度の 89%から平成 27 年度の 100%となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。